

グループ⑤	ファシリテーター: 関深雪(土浦協同病院)
テーマ	教育について
参加者	4名 プリセプター世代
内容	<p>1. プリセプターとして、プリセプティーに対して適切な指導ができたのか 指導の成果は、すぐには評価できない、長い目、時間をかけて関わりをもち、新人、後輩が実践で出来てきているなど、評価し成果があるかみていくしかない。 指導が正解かもわからない、一人ひとりに合わせた指導が必要。 みな同じ指導の仕方は合う、合わないが出てくる。</p> <p>2. 若手、中堅ベテランの温度差、世代によって仕事に向き合う姿勢、取り組み方、考え方の違いはほかの施設でもありますか 中途採用の配属により各世代が増え、新しい風が入り、違う施設の情報によって温度差が少しずつ埋まってきている感じがする。 ベテランになればなるほど、指導方法が顕著に違っている。 新卒と中途では、経験によって看護師としての土台が違ったり、仕事への取り組み方、考えかたもちがう。 受け身のタイプが多くなってきている気がする。指導側が言わないと行動できない。 相手がどういう人なのか、学ぶ姿勢、すぐ学べるタイプかゆっくりタイプなのか、指導者が理解し、コミュニケーション関わりを持たないとつぶれてしまうこともある。</p> <p>3. 人手不足で、他病棟から来てくれても手術室が合わないで移動してしまうことがある そういった人への指導は？ オペ室経験がない人にはプリセプターがついて、新人と同様に指導している プリセプターも同じように移動してきた人を選抜して対応している。 看護師経験者なりにできる業務(患者への接し方対応など)同じく配属された新人にアドバイスしてもらおう。 外回りの役割は大変だとおもうが、できることの達成感で今まで培った能力を生かせ、新しいことを覚えていけることがモチベーションにつながる。 器械だしをメインにどんどん進めてしまうと、大変、つらいと感じてしまうことがある。 今までできてきたこと以外ばかりだと、向いていないと感じてしまうことがあった。外回りの患者対応、エピソードの体位の取り方すぐに実践できる、経験者は周りの動きを観察能力がある、指導を理解飲み込む力がある。できることは積極的に行ってもらいながら器械だしを進めていってもらったこともあった。</p> <p>4. ベテラン、上の世代になると器械だしをすることが減っている。必然的に新人若い世代が器械だしができないといけない、やらないといけない。外回りをしないと看護師らしさが成長できないのではないかと感じている。他の施設でも最初に器械だしを教えていっているのか。 器械だしができないと外回りを行わない。器械だしをすることで、手術の流れを理解でき、手術中外回りで何が必要か理解できるようになる、外回りも同時に行うとどっちつかずになってしまうこともあった。</p>

手術操作時の有事の場面、緊急時の対応時、新人、1年目からは対応が難しい、機械だしをして、そういった場面で外回りがどのように動いているか見て知ってもらう。

機械だしをメインに進めている。

緊急で対応ができるようになるには新人は難しい、勤務体制によって休日や夜間帯など人数が少ない中で、緊急手術を対応していけるようになるまで時間がかかる。

チームで行っていく中、1年目は外周り1名では対応できない、外まわりとしていろんな側面を考えて行動する、看護師としての感を研ぎ澄ませて行動、応用力が必要、技術だけでなくノンテクニカル力が重要になってくる。

器械だしを経験していくことで、技術、テクニカルスキルをつけていく、出血しやすいのか、どこら辺で外回りが動かないといけないのか学んでもらっている

比率的には機械だしが多くなってしまふ。

外回りは、医師、患者の間に入って仲介役が果たせるのも新人は意見を言えなかったり、コミュニケーションが取れないこともあり、経験年数が増え、コミュニケーションが取れる上のベテランになってくる。

年代が上がってくことで、身体的側面で針がみれなくなってくるもあり、機械だしができなくもなっている。

5. 新人に対してこれからどのように指導をしていきたいか

新人に1～10まで指導してみたが、指導内容をなかなか吸収してもらえなかった。

器械だしをメインでやらせて、同じようにそばでサポートし、その場で機械だしの助言してきた。メインで行って経験が多くなることで、覚えもよくなっていたと思う。

器械だしをする際、器械の名前がわかればいようって教わったが、2年目3年目で外回りをするようになってもので覚えていると、今出血しました、どこが出血したのかわからない、もので教えるやり方はやめようと思っている。

学習してきてもらう、学習内容の振り返りを一緒に行う、新人がどのくらい理解できているのか実践前に確認する。

指導者側も根拠を理解していないと、具体的に指導できない。感覚での指導では伝わりにくい。指導者もこれまでの知識を学び返し、どう伝えていくと相手にわかりやすいかなと考えていくことでプリセプターとして成長していける。